

令和6年度社会教育施設評価書（目標設定・実施結果）

施設名 近代美術館

評価基準 (達成度)	達成 (目標値 \geq 100%)	○
	ほぼ達成 (目標値 \geq 80%)	△
	未達 (目標値 $<$ 80%)	×

○全館共通項目

		取組の内容		自己点検			
		1年間の目標値	実現方策	達成値	達成度	課題・対応の方向	
利用状況	満利用者	94%	アンケートに示された意見を活用して改善を行う	95.9%	○	全体的に評価が高かった。展覧会等の事業に加え、PFI事業者と連携して利用者対応、レストラン、ミュージアムショップでの総合的な利用者満足度の維持に引き続き努める。	
	入館者	60,000人	入館者数を確保するために魅力ある展覧会を企画し、効果的な広報に取り組む。	49,924人	△	葉山館の半年間展示休止期間においては展示室以外のスペース等を活用した企画展示等を実施したが、例年よりも来館者が落ち込んだ。魅力的な展示・講座を実施し、入館者の増加に努める。	
	教育・普及事業への参加者	増加させる	ニーズを汲み充実を図る			○	全体的に良好な結果であった。学習利用受け入れについては学校からの要望があった場合に対応しているが、今後増加させるため積極的な働きかけを行っていく。講座・イベントに加え普及教育教材の配布等を充実させ、参加者の増加に引き続き努める。また、スタンプラリーについても継続的に実施する。
		1,500人	教育普及事業への参加者	2,623人			
		3件以上	学校等への出前講座の件数	21件 ⁱ			
40件		学習利用受入件数	26件 ⁱⁱ				
	1,000点	教材提供数	1469点				
	12回	展示解説	31回 ⁱⁱⁱ				
	40人	実習研修生受入人数	232人				
	2,595件	計	4,402件				
	クイックスターネットア	増加させる (前年度642,627件) 700,000	改修したホームページを活用して訪問者のニーズに応える	美術館ウェブサイトアクセス数 1052,507件	○	前年度から大幅に増加した。利用者が求める情報をタイムリーに届けられるように美術館WEBサイトの情報の適宜更新に引き続き努め、アクセスの増加につなげていく。	

資料・収蔵品	活用	増加させる	県民共有の財産との観点から有効活用に努める		○	各項目で目標を達成した。収蔵資料を展示に活用し、またそのデジタル情報をウェブサイトで公開して、近代美術に対する知識及び教養の向上に寄与することで財産の有効活用に引き続き努めていく。
		250 点以上 (資料・寄託作品を含む)	館内展示利用数	416 点 (資料・寄託作品を含む)		
		10 件以上	特別利用許可申請数	40 件 (254 点)		
		10 件以上	館外貸出件	20 件 (119 点)		
		30 件以上	画像貸出件数	34 件 (52 点)		
		300 件	計	510 件		
	維持管理	美術作品の保存に適正な環境を維持	PFI 事業者による保存環境の維持履行を求め、職員として適正な取扱いを実施	達成	○	両館ともに良好な温湿度で保存環境を保ちながら管理を行った。引き続き PFI 事業者と協力しながら適正な運営に努める。
調査研究	(研究成果の公開等) (発表・印刷物等)		研究成果を積極的に公開し美術館員の学術成果を発信する		×	目標を達成できなかった項目が複数あった。出版物やその他のメディアを通してその情報を広く発信すること及び美術全般についての調査研究を深めて、講演会等を通してその情報を提供することを積極的に実施する。
		4 件	文献等の執筆数	2 件		
		4 件	図録等執筆	9 件		
		8 件	新聞・雑誌等寄稿数	2 件		
		15 件	専門的な講座	8 件		
		5 件	学会や研究会等での発表件数	0 件		
	36 件	計	21 件			

情報発信	事業情報の発信	増加させる			○ 各項目で目標を達成した。インターネット等で事業情報を発信することで、来場者のみならず広く共感と理解を醸成して文化を共有する。今後も引き続き、魅力的なコンテンツを作成し、着実な情報発信に努める。
		60 件	HP 投稿数	110 件	
		16 件	参考資料送付件数 (メーリングリスト)	17 件	
		300 件	SNS 投稿数	625 件	
		5 件	チラシ・ポスター発行件数	7 件	
381 件	計				
施設運営等	観覧料収入及び事業等収入	45,746千円	展示会の鑑賞を通じて県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図る	22,837千円	× 目標を大幅に下回った。魅力的な展示・講座を実施し、入館者数と収支のバランスを意識した事業を行うように努める。
		R 6 (予算ベース)		R 6 (決算ベース)	
施設運営等	施設点検	モニタリング点検	葉山館及び鎌倉別館で毎月1回のモニタリングを実施。	24 件	○ PFI 事業者との契約に基づき、月1回のPFI事業者からの報告書を受け、美術館でその点検を実施した。
		24 件			
施設運営等	自己研鑽及び他館の研究	(記述式) 社会包摂などに関する研修を行う。	自己研鑽や他館の研究、時宜に合った研修を通して美術館に関わる幅広い業務に従事する様々な専門的人材を育成する。	社会包摂などに関する研修を行う。	○ 日本博物館協会等の外部団体が主催する研修に学芸員等が積極的に参加し、それぞれの専門分野を深めた。

注) 各論は各館独自の取組みを中心に評価項目や指標を設定する。

i 学校連携、インクルーシブ事業「むすんでひらいてプロジェクト」のほか、葉山町や逗子市、鎌倉等の地域と連携した以下の講座を含む。「近代美術入門講座(葉山町共催連続講座)」、「近代美術入門講座(逗子市共催連続講座)」、「鎌倉文化ゾーンミュージアムめぐりスタンプラリー関連企画 2024 北条政子歿後 800 年 5 館+1 館の学芸員によるトークセッション「鎌倉と女性」、県立社会教育施設公開講座「神奈川県立近代美術館 鎌倉別館」40 周年記念連続講演会」。

ii 学校教育機関、生涯学習施設からの団体来館、当館敷地内で実施した学校連携事業の合計。

iii ギャラリー・トークと来館団体へのトークの合計。